

V. 特記事項

1. ザ・カレッジ・オペラハウスにおけるオペラ公演

本学は、併設大学とともに教職員の人的資源と施設・設備を活かして、様々なコンサートや公開講座等を開催し、広く社会に向けた音楽文化の発信を続けている。なかでもザ・カレッジ・オペラハウスは、最大756の客席数を有し、我が国で初めて専属の管弦楽団と合唱団を備えた劇場であり、併設大学の声楽専攻及び本学の声楽コースの学生・卒業生・教員を主なキャストとして継続的にオペラ公演が行われている。

平成元(1989)年に竣工したザ・カレッジ・オペラハウスにおける数々のオペラ公演は、これまで大阪文化祭賞本賞、大阪舞台芸術賞、ABC 国際音楽賞、三菱信託音楽賞（現三菱UFJ信託音楽賞）、音楽クリティック・クラブ賞本賞等、数多くの賞に選定された。とりわけ平成17(2005)年度公演（「20世紀オペラ・シリーズ」松村禎三作曲、歌劇『沈黙』）、平成23(2011)年度公演（「20世紀オペラ・シリーズ」B.ブリテン作曲『ねじの回転』）、平成26(2014)年度公演（「20世紀オペラ・シリーズ」鈴木英明作曲『鬼娘恋首引』及びB.ブリテン作曲『Curlew River』）において、いずれも文化庁芸術祭賞の大賞（音楽部門）を受賞し、社会からの高い評価を得ている。

令和2(2020)年度のオペラ公演は、コロナ禍の影響によって「学生オペラ」(D.チマローザ作曲『秘密の結婚』)のみとなったが、今後も継続して質の高い公演の開催に努め、本学の教育・研究の成果を地域社会に還元し、文化的活性化に役立つ活動を推進する。

2. 楽器資料館

楽器資料館は、第2キャンパスK号館3階にあり、主に「日本の伝統楽器」「ヨーロッパの楽器」「世界各地の楽器」の3つの分野及び本学創立者で関西における洋楽教育の先駆者であった永井幸次に関する資料の収集・展示・研究を目的とする施設である。館内には、所蔵資料の中から世界各国の楽器約1,400点を常時展示し、一部の楽器については実際に触れて音を出すことができる。特に、サントリー弦楽器コレクションの弦楽器42点、弓22点、その他12点の計76点は、同社から寄贈を受けたものであり、ストラディヴァーリ製のピッコロ・ヴァイオリン(1720年)やガスパロ・ダ・サロ製作のヴィオラ・ダ・ガンバ(16世紀後半)等の貴重な逸品が含まれる。

本学の学生・教職員は、授業期間中の開館時に随時、楽器資料館を利用することができ、学外の見学希望者については、特定期間の月曜及び土曜の10時～16時の間に開放されている。また、予約制での学芸員による展示品の説明や、オープンアクセスでのOCM-OPAC(Osaka College of Music Online Public Access Catalog)による楽器・資料の検索等、学外利用者への利便も図っている。

学外の機関・団体との連携事業については、同館が加盟する「かんさい・大学ミュージアム連携」の一環として、平成29(2017)年10月に大阪芸術大学博物館との連携講座「音楽を再生する道具とその変遷」の開催、令和元(2019)年9～11月に企画展示「西洋音楽とKIMONO」を行った。また歴史的楽器による演奏を行う団体への楽器貸出し、池田市教育委員会主催の「ミュージックデイ」における小学生対象の講座開催など、本学の社会貢献活動の一翼を担っている。